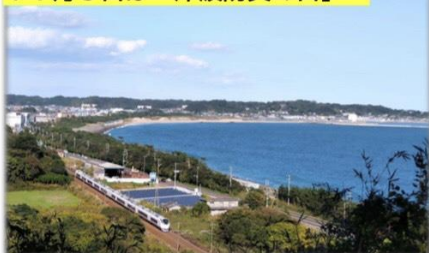




MITO MAIL NEWS

JTSU-E 水戸地本
2020.11.05
052号

11月5日は「津波防災の日」...



大地震発生！
海のそばに列車が停止！
津波がすぐそこに！

常磐線被災線区現地踏査

水戸地本では11月5日の「津波防災の日」に合わせ、東日本大震災で実際に津波の被害があった、常磐線磯原～大津港間の津波避難区域の現地踏査を行いました。

北茨城市指定避難場所【南多目的集会所】

- 平坦な場所であるが海からは離れており津波被害は無い場所にある。
- 道路より比較的高い場所でもあり、なおかつ震災時の備蓄倉庫も設置されていた。
- 避難経路の両端は住宅街であり地震による崖の崩壊なども想定される。

JRの避難誘導場所

- 「茨城バシフィックカントリー倶楽部」
- ゴルフ場の敷地内には避難があり、崩壊の危険となる。
- 左記地帯一体で線路からの避難場所はここ1か所であるが、地震による側木倒壊箇所があった。
- 会社が想定する経路では、回り道となっているところもあった。

自治体では避難施設の建設や津波対策の整備を進めており、JRの避難用タブレットでは掲載されていない、避難場所や施設も多く存在した。

来るべき災害に備え、組合員と鉄道利用者の「命」を守るため JTSU-E は地域防災計画づくりに取り組んでいきます！

↑ JTSU-E 水戸地本情報

Hachioji MAIL NEWS

JR 東日本輸送サービス労働組合 八王子地本
2020.11.6
No. 051

11月5日は「津波防災の日」
災害からいのちを守るための現地踏査を行いました！

◇そもそも「津波防災の日」って何？

1854年11月5日の安政南海地震（M8.4）の影響で現在の和歌山県田辺市を襲った大津波から、村人が稲むらに火をつけて暗闇の中で逃げ遅れていた人々を高台に避難させて命を救った「稲むらの火」の逸話を由来として、毎年11月5日を「津波防災の日」と定められています。

八王子地本は中央線立川～日野間走行中、立川断層が震源の多摩直下大地震が発生し、線路・架線に異常があり運転不能となった場合を想定し、ハザードマップを活用しながら避難経路を確認しました。

駅前や電柱に、避難所の案内がありました。普段から不慣れた土地に行った際に意識して見る事で、被災した際に活用出来ます。

掘削区間には作業用通路が何か所かあり避難の際に活用出来そうですが、草で覆われていたり南京錠で鎖錠されていたり、現状では使えない状態です。

広めかつ平坦な作業用通路。南京錠で鎖錠されていますが、活用出来れば安全に避難誘導出来るのではないかと思います。

沿線に近い指定避難所を訪れお話を伺いました。「JRの乗客を受け入れられるかどうかは市が判断する事なのでわからない」との事でした。

普段と違う視点から現地踏査を行うことで、多くの課題が見えてきました。関係自治体との協議を行うなどして、具体案を練り上げていきます！

11月5日

「世界津波の日」

TOKYO MAIL NEWS

JTSU-E 東京地本
2020.11.6
No. 142

11月5日「世界津波の日」「津波防災の日」に各支部・分会で防災士を先頭に実践行動を行う！



東日本大震災から来年で10年を迎えます。当時津波に襲われ、多くの児童や教職員の命が奪われた宮城県石巻市立大川小学校の訴訟では「事前防災の必要性」が言及されました。「平時から油断せず、津波の危険性を検討し、適切な避難場所を定め、訓練していれば地震後、早い段階で安全な場所への避難が可能だった」と指摘し、市教育委員会や学校が行うべき防災対策をしていなかったことは「違法」であると判断しました。事前防災の必要性は、鉄道業で働く私たちにも求められます。災害発生時には、駅係員や乗務員の指示に従うことが周知されています。乗客の避難・誘導に際するには平時から避難先やルートなどを確認し、災害への備えをつくり出すことが重要です。今回、実践行動を通じて一人ひとりが防災について考えてきました。

← JTSU-E 八王子地本情報 ↑ JTSU-E 東京地本情報

11月5日の「世界津波の日」に合わせ、JTSU の各職場では、「災害から鉄道利用者と組合員の命を守る」ための事前防災の取り組みとして、線区や地域の特徴を踏まえた実践行動を各地で展開しました。

「防災・減災」の取り組みは平常時から備えと構えが重要です。JTSU は「防災士」を中心に組合員との議論と行動を積み重ねて、「安心して利用できる鉄道」を目指して運動を展開します！

防災士を中心に各地で実践行動を展開！